

## 第6学年 体育科学習指導案

平成28年10月28日 金曜日 4校時

第6学年2組(男子13名、女子12名)

場 所 えびの市立飯野小学校

指導者 井 上 岳

### 1 単元名 ボール運動 (ネット型: ソフトバレーボール)

### 2 単元の目標 (第5学年及び第6学年の2年分) ※ ( ) は第5学年で取り上げた内容

- (1) 軽くて柔らかいボールを片手や両手で操作したり、簡易化されたゲームでチームの連係による攻撃や守備によって、攻防をしたりすることができるようにする。 (技能)
- (2) ネット型の運動に (進んで取り組み、) ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (態度)
- (3) (ルールを工夫したり、) 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。 (思考・判断)

### 3 運動の一般的特性

- ボール運動は、勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することを楽しむことや喜びを味わうことができる運動である。その中でもネット型は、ネットで区切られたコートの中で、プレーの連係による攻撃や守備によって、一定の得点に早く達することを競って勝敗を楽しむ運動である。ネット型の技能は、サービス・レシーブ・トス・アタックというボール操作やボールの方向への移動、チームの仲間と協力してボールを落とさないようにしたり、捕りにくいボールを打って相手のコートに落としたりするものである。

### 4 児童の状況

#### (1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級の児童 (男子13名、女子12名、計25名) は明るく元気で素直である。体育に関するアンケートでは、「好き」と答えた児童が21名と多く、理由として「体を動かすことが楽しい」「走ることが好き」「ボールを使うことがおもしろい」などと答えている。しかし、嫌いな児童が4名おり、理由として「運動が苦手だから」「運動が苦手な自分をみんなに見られるのが嫌だから」「ぜんそくがでたりするから」と答える児童がいる。

また、ボール運動に関するアンケートでは、「大好き」「好き」と答えた児童が21名おり、多くは「ボールに触ることが好きだから」「みんなと協力してできるから」などと答えている。しかし、嫌いな児童が4名おり、その理由として、「ボールをうまく投げられないから」「ボールが捕れないから」「ボールが怖いから」と、ボールの操作がうまくできないことを挙げていた。

日常においては、昼休みはサッカーやキックベース、鬼ごっこをする児童がほとんどで、ボールを投げたり捕ったりする機会があまり多くない。そのため、力強いボールを投げたりボールを正面に移動して捕ったりする動きも個人差が見られる。

#### (2) 態度、思考・判断に関する学習体験状況

1学期の体づくり運動やボール運動 (ゴール型: バスケットボール) では、めあてをもち、その解決方法について考え、練習したり振り返ったりする流れで学習してきた。しかし、チームの特徴に応じて作戦を立てたり、具体的な練習方法を考えたりして取り組むことは、まだ十分にできていない。

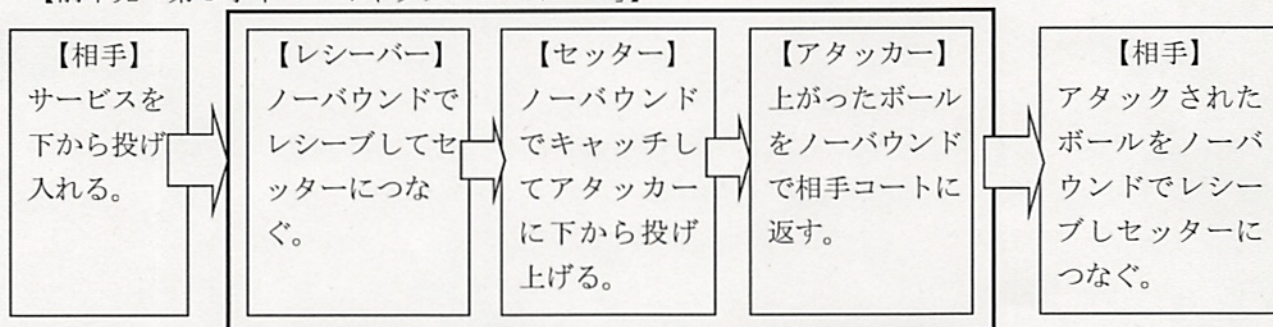
#### (3) 技能の習得状況

スポーツ少年団等でバレーの経験がある児童はおらず、バレーボールに慣れ親しんでいる児童は少ない。



前学年では「ソフトバレーボール」のルールや技能を簡易化した「キャッチバレーボール」を行った。その中で、ボールをレシーブし、2番目の児童が手でキャッチトスを上げてボールを打つ攻撃を行ったり、ボールに体を向けその方向に素早く移動するなどボールをもたないときの動きを身に付けたりしてきた。しかし、技能の個人差は大きく、なかなかボールを上に出ることができなかつたり、守備でどのように動いたらよいか分からなかつたりしたため、アタックの攻撃だけになり、ラリーを続ける楽しさを感じることができていなかった。

【前単元 第5学年 「キャッチバレーボール」】



※ ネットの高さ150cm

(4) 体力の状況

新体力テストにおける総合評価の結果は以下のとおりである。

	男 子					女 子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	2人	1人	4人	6人	0人	2人	4人	2人	4人	0人
%	15	7	31	47	0	17	33	17	33	0

総合評価Eはいないものの総合評価Dの児童が全体の4割を占め、総合評価A・Bの児童よりも多く、体力が高いとは言い難い。新体力テストで本単元と関わりが深い反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げを県平均(平成27年度)と比較すると、男女ともに立ち幅跳び、女子はソフトボール投げが低いことがわかった。

(5) 児童の運動に対する思いや願い

質問項目				
バレーボールは好きですか。または好きになれそうですか。	大好き 13人	好き 6人	あまり好きではない 4人	好きではない 2人
最も高めたい技能は何ですか。	アタック 8人	ボールをつなぐ(トス・レシーブ) 10人	サービス 5人	ボールを持たない時の動き 2人
バレーボールのどんなところが楽しみですか。(複数回答可)	<input type="radio"/> 自分が技能を身に付けて上手になること <input type="radio"/> 友達も技能を身に付けて上手になること <input type="radio"/> 技能を身に付けるためにみんなで練習すること <input type="radio"/> チームで作戦や練習方法を話し合うこと <input type="radio"/> チームで考えた作戦ができるようになること <input type="radio"/> 友達と教え合ったりしてみんなで高め合っていくこと <input type="radio"/> 試合で勝つこと <input type="radio"/> 自分より上手な友達に追いつくこと			13人 9人 13人 16人 17人 12人 15人 12人

アンケートの結果、バレーボールが好きと答えた児童が多い反面、「ボールがこわいから」「ボールを使うことが苦手だから」という理由から「(あまり)好きではない」、「(あまり)好きになれそうにない」と答えた児童が6名いることがわかった。



また、「5年生のときにラリーが続かなかったから」「みんなとパスをつなぐと1つになれるから」などの理由で、ボールをつなぐことを高めたいと思っている児童が一番多いということがわかった。一方、「点をとりたいから」「かっこいいから」という理由でアタックやサービスを高めたいという児童も多くいることがわかった。

## 5 学習を進めるに当たって

そこで本単元では、「ソフトバレーボール」のルールや技能を簡易化したゲームを行い、児童が進んで練習やゲームに取り組んだり、話し合ったりできるようにしていく。また、児童の思いや願いを生かし、単元を通して技能を高めていけるように指導していきたい。

単元全体を「オリエンテーション」「ステップ1『チームでボールをつないでボールを返球しよう。』」「ステップ2『作戦を立ててゲームを楽しもう』」の3段階で構成する。単元全体を通して「用具準備・挨拶」「準備運動」「めあてと進め方の確認とチームの練習」「ゲーム1」「ゲーム2」「本時の反省と次時の確認」の流れで学習を進める。準備運動では、「サーキット運動」と「主運動につながる運動」を行う。その際、サーキット運動では新体力テストで本校児童に落ち込みが見られた動きを取り入れるようにしていきたい。

オリエンテーションでは、バレーボールの特性である「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」などの技能や試合の様子を、映像で見せることで児童にゴールイメージをつかませたい。また試しのゲームでは、ルールの工夫を行うとともに「サービスを打ち入れること」、「ボールをつなぐこと」、「組み立てること」というつなぐことの大切さに気付かせ、ステップ1につなげていきたい。加えて、ルールとマナーや安全に気を配ることの大切さも指導していきたい。

「ステップ1」では、バレーボールの基礎となる「レシーブ」「トス」「サービス」の技能を高めるよう指導をしていく。その際、KOETAカード(学習カード)、ICTを活用して練習に取り組むことで技能を向上させたい。ICTの活用では見本となる動きや自分の動きを確認したり、技能の向上のポイントに気付かせたりする。KOETAカードでは動きのポイントを確認したり、評価したりできるようにしている。

「ステップ2」では、「ステップ1」で高めた技能を生かして、チームで作戦を立てて攻撃や守備を行うよう指導する。チームでの練習では、いくつか練習方法を動画で見せ、チームの特徴に応じた練習ができるようにしていく。チームでの練習やゲームでの経験を通して、チームの特徴に気付かせ、作戦ボードを活用しチームの特徴に応じた作戦を立てることができるようしていきたい。

特に本時の学習では、サービスについて学習する。前時までは手で投げ入れてからゲームを始めていたが、サービスから始められるようになり、ステップ2で攻防のあるゲームにつなげていく。

「なか」の段階では、ゲーム1でアンダーハンドサービスの技能を、KOETAカードを使ってポイントを確認したり、ICTを活用したりして、技のポイントをつかませしていきたい。また、友達同士で見合ったりすることで、教え合いながら技能が向上していくよう取り組ませていく。さらにゲーム2では、これまで学習してきたことにサービスを加えたゲームを行い、ソフトバレーボールの技能を高めていきたい。



	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。</li> <li>● 運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。</li> <li>・ 集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。</li> <li>◎ ネット型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 簡易化されたゲームで、チームの係による攻撃や守備をするための動きができる。</li> </ul>
学習に則した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ルールやマナーを守って、助け合って練習やゲームをしようとしている。</li> <li>② 場を整備したり、用具の安全に気を配ったりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ネット型のゲームの行い方を知っている。</li> <li>② チームの特徴に応じた攻め方を知っている。</li> <li>③ チームの特徴に合った作戦を立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。</li> <li>② 相手コートにボールを打ち返すことができる。</li> <li>③ 相手のコートに向けてアンダーハンドサービスを打ち入れることができる。</li> <li>④ ボールの方向に体を向けてその方向に素早く移動することができる。</li> </ul>



7 単元の学習計画及び評価計画

時間		1	2	3	4	5	6	7	8
指導内容 (学習の重点)	技		味方が受けやすいようにボールをつなぐ①	ボールの方向に体を向けて、素早く移動する④		ボールを打ち入れる③	相手のコートに打ち返す②		
	態	安全に気を配る②			ルールやマナー、協力①				
	思	ゲームの行い方①					チームの特徴に応じた攻め方②	チームの特徴に応じた作戦③	
学習活動 ステップ	0	① オリエンテーション ・ 学習のねらいと進め方の確認をする。 ・ 動画を見て、ゴールイメージをつかませる。	ステップ1「チームでボールをつないで相手コートに返球しよう。」			ステップ2「作戦を立ててゲームを楽しもう。」			
	10	② サーキットトレーニングの行い方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。	③ 本時の学習の進め方を確認する。
	20	③ 場の準備の仕方を確認する。	④ ゲーム①を行う。 ・ アンダーハンドパスでのパスゲーム ・ オーバーハンドパスでのパスゲーム	④ ゲーム①を行う。 ・ 扇形パス ・ 円陣パス	④ ゲーム①を行う。 ・ アンダーハンドパスでのパスゲーム ・ オーバーハンドパスでのパスゲーム	④ ゲーム①を行う。 ・ アンダーサーブでのパスゲーム	④ ゲーム1 ・ アタック	④ ゲームを行う。	④ バレーボール大会を行う。
	30	④ 試しのゲームを行う。	⑤ ゲーム②を行う。 ・ 兄弟チームとのラリーゲーム	⑤ ゲーム②を行う。 ・ 兄弟チームとのラリーゲーム	⑤ ゲーム②を行う。 ・ 兄弟チームとのラリーゲーム	⑤ ゲーム②を行う。 ・ アンダーサーブから始まるラリーゲーム	⑤ チームで攻め方を考える。	⑤ チームの特徴に合った作戦を考える。	
	40	⑤ 学習の振り返りとまとめを行う。	⑥ 学習の振り返りとまとめを行う。			⑦ 学習の振り返りとまとめを行う。			⑤ これまでの学習を振り返る。
	45	⑥ 次時の見通しをもつ。	⑦ 次時の見通しをもつ。			⑧ 次時の見通しをもつ。			
指導上の留意点		○ 動画を見せ、ゴールイメージをつかませる。 ○ 試しのゲームを行い、ルールとマナーを確認する。 ○ 場を整備したり、用具の安全を守ったりさせる。	○ まな板とざるを使い、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの感覚をつかめるようにする。	○ ホワイトボードを活用し、立ち位置などを考えて取り組ませる。	○ 上手にアドバイスを行っている児童を紹介し、他の児童に広めるようにする。	○ ICTを活用し、上手な児童を紹介し、ポイントを見付けさせる。	○ チームの特徴を個人で考えさせたりチーム内でフォーメーションを考えさせたりする。	○ チームの特徴を意識した練習をさせ、その練習がゲームに生かせるようにする。	○ 単元を振り返り、学習のまとめをさせる。
	評価機会	関 思 技	②		①	④	①	②	③
学習活動に即した評価 基準及び評価方法		○ ネット型のゲームの行い方を知っている。(観察)	○ 場を整備したり、用具の安全に気を配ったりしようとしている。(観察)	○ 味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。(観察)	○ ボールの方向に体を向けてその方向に素早く移動することができる。(観察)	○ ルールやマナーを守って、助け合って練習やゲームをしようとしている。(観察)	○ チームの特徴に応じた攻め方を知っている。(学習カード) ○ 相手コートにボールを打ち返すことができる。(観察)	○ チームの特徴に合った作戦を立てている。(観察・学習カード)	
	準備物	KOETAカード 掲示資料 大型テレビ タブレット	KOETAカード 大型テレビ タブレット まな板 ざる 掲示資料	KOETAカード 大型テレビ タブレット ホワイトボード 掲示資料	KOETAカード 大型テレビ タブレット 掲示資料	KOETAカード 大型テレビ タブレット 掲示資料	KOETAカード 大型テレビ タブレット ホワイトボード	KOETAカード 大型テレビ タブレット ホワイトボード	KOETAカード ホワイトボード



8 本時の学習（5／8時間）

(1) 本時の目標

- 相手のコートに向けてサービスを打ち入れることができるようにする。 (技能)

(2) 本時の評価項目

- ルールやマナーを守って、助け合って練習やゲームをしようとしている。 (関心・意欲・態度)

9 学習指導過程

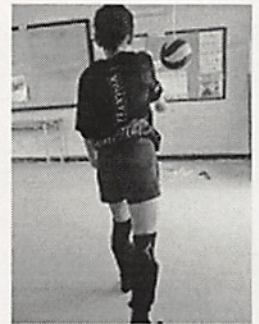
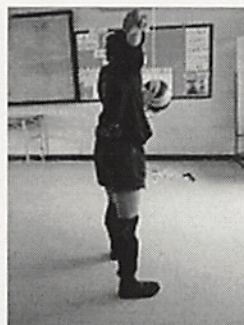
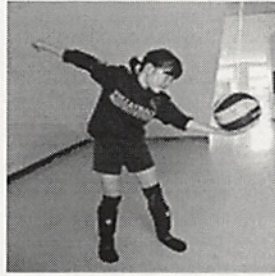
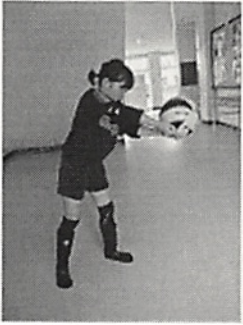
段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価項目【Aの例】(評価方法)	「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
はじめ (10分)	1 準備運動をする。 ・体をほぐす運動 ・サーキット運動 2 主運動につながる運動をする。 ・ボールを使った運動 ・パス練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ けがを防止し、心拍数を高める運動に取り組ませる。</li> <li>○ 既習した動きのポイントを確認しながら取り組ませる。</li> </ul>		
なか (30分)	3 本時の学習の進め方を確認する。 4 ゲーム1を行う。 ○ ゲーム1 ・時間内にネットを越えた数を競う。 ○ ゲーム1の流れ ① 全体でサービスのポイントを確認する。 ② ゲームをする。 ③ ポイントを友達と確認し合いながら練習をする。 ④ もう1度ゲーム1を行う。 5 ゲーム2を行う。 ○ ゲーム2 ・兄弟チームと協力し、時間内にネットを越えた回数を競う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICTを活用し、上手な児童を紹介し、ポイントを見付けさせる。</li> <li>○ KOETAカードを使い、技のポイントを確認する。</li> <li>○ サービスのポイントの視点をもって友達を観察し、アドバイスをさせる。</li> <li>○ よい動きに気付くことができるよう、望ましい動きを積極的に賞賛するようにする。</li> <li>○ ICTを活用し、児童のフォームを見せ、どこに注意をすればよいかアドバイスをする。</li> <li>○ パスがつなぎやすいよう、兄弟チームで声をかけ合っている様子を賞賛する。</li> </ul>	【Aの例】 ◎ ルールやマナーを守り、いつも友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。(観察)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アドバイスや援助する視点を確かめ、個別に声かけを行う。</li> </ul>
	6 学習の振り返りとまとめをする。 7 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ KOETAカードにサービスのポイントが理解できたか記入させる。</li> </ul>		



# KOETA カード ソフトバレーボール (サービス)

## 6年 名前

めあて 相手のコートに向けてアンダーサービスを入れることができるようになる。



① かまえ

②手をまっすぐ後ろ

③ボールのまっすぐ

④ ふりあげる

イチ

二ーノ

後ろ サン

ポイント

( できたものに〇 )

できたかな

① かまえ (ボールを手のぎゃくの腰前)

(イチ)

② 手をまっすぐ後ろに

(二ーノ)

③ まっすぐふみだす 大きく手をふりボールにアタック (サン)

アドバイス

ボールが思ったコースに行かない



ひいた手をまっすぐふりだそう。

ボールが低かったり、高かったり



ボールをあてる位置を考えよう

ボールがあまりとばない



しっかり歩いて、大きく手をふりだそう。

評価

できた

まあまあ

もう少し

A

① ルールやマナーを守って練習やゲームができましたか。

② 声をかけあいながら協力して取り組みましたか。

B

① サーブがネットをこえましたか。

② サーブがねらったところに入りましたか。

③ チームでパスがつながって返球できましたか。